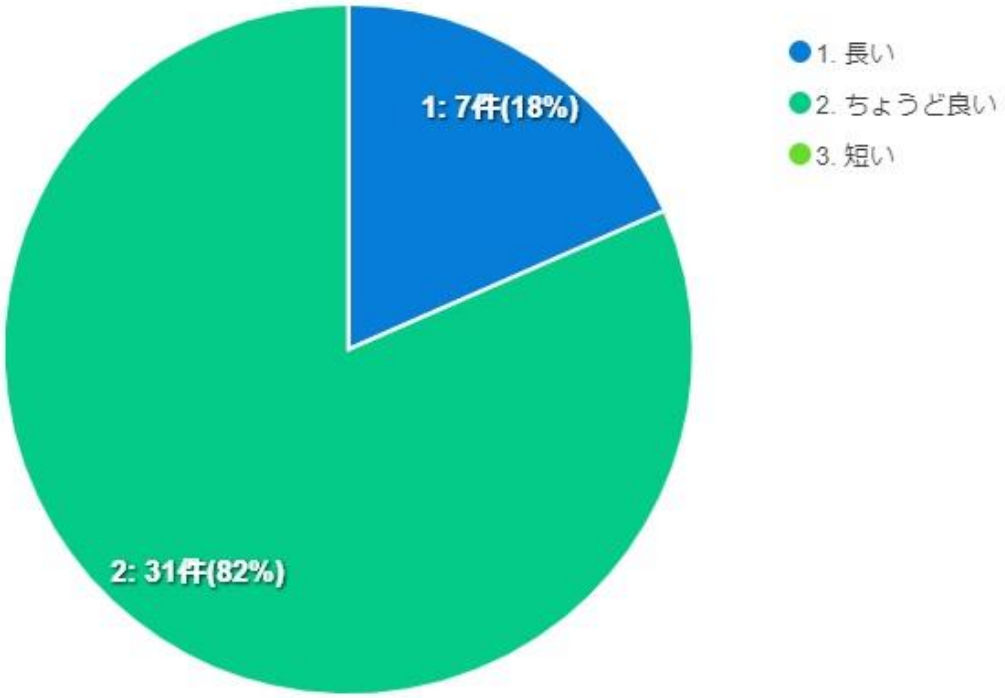
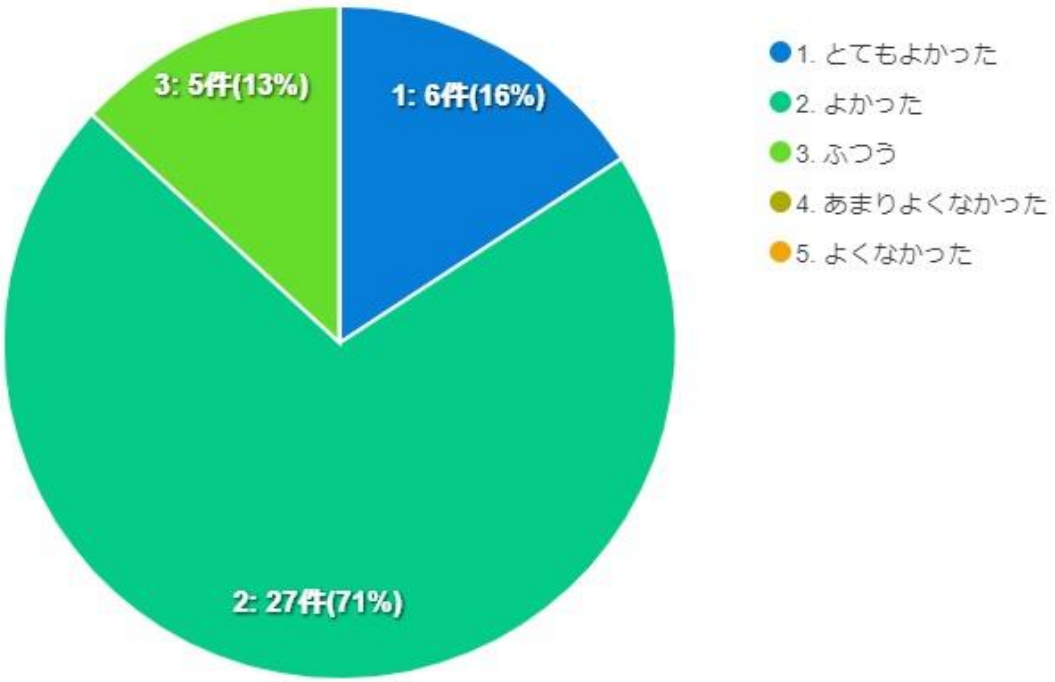
10/28 令和６年度子どもの貧困対策に関する職員研修

アンケート結果まとめ(アンケート回答数 38 件)

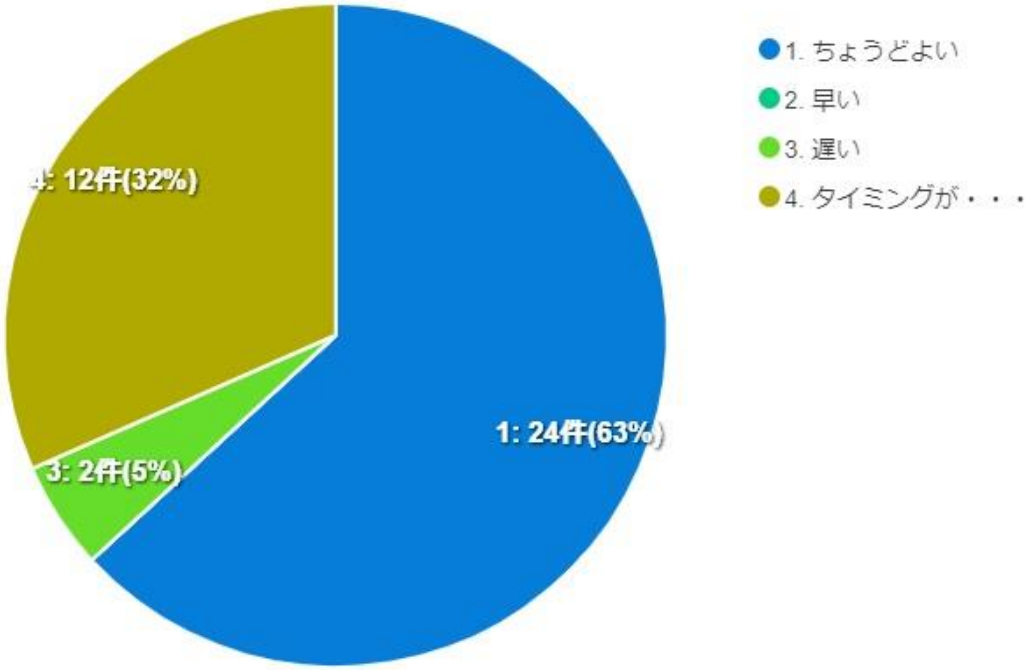
Q1.研修の時間について(２時間)



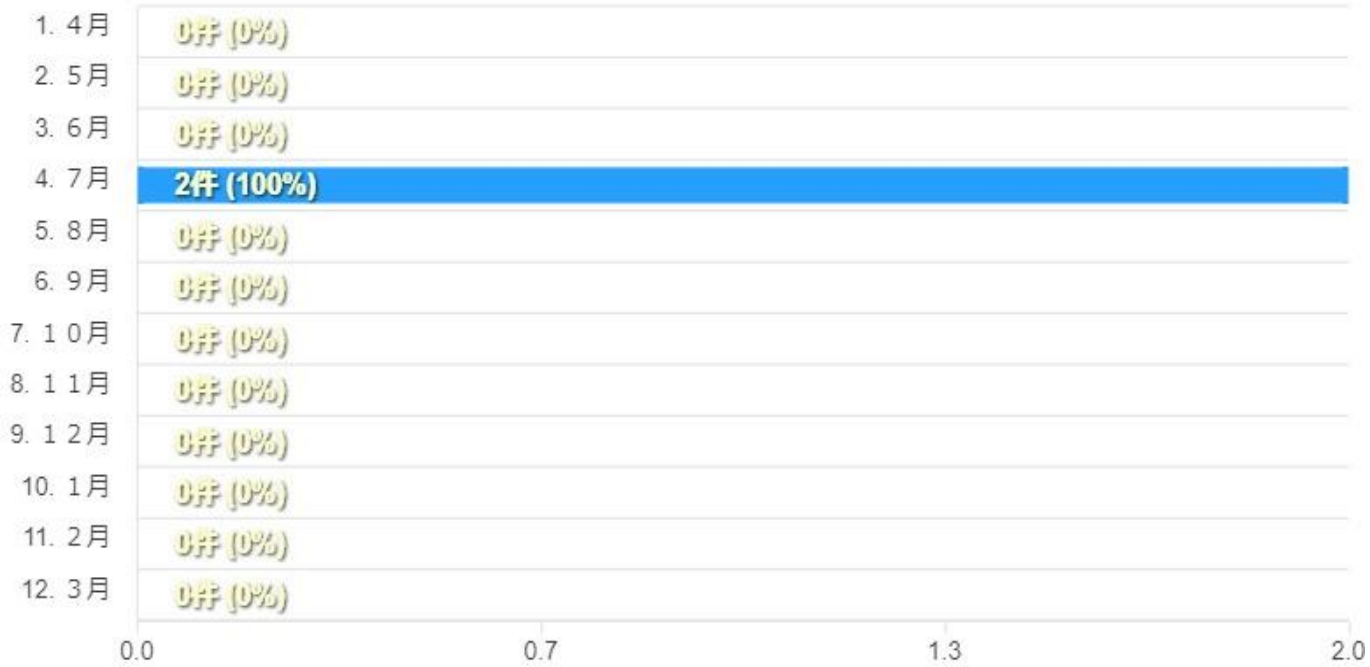
Q2.研修の内容



Q3.研修の実施時期(10 月 28 日開催に対して)※衆院選の翌日



Q3 で「早い」「遅い」と回答した方の希望の時期



全体的にプラス評価の回答が多く、良い内容であったと思います。
実施時期については昨年度の 12 月より早めたことで「ちょうどよい」の回答が多く見られた。しかし衆院選が予期せず前日に入ってしまったことにより各課の人員の調整が厳しく、昨年に比べて参加者が少なくなってしまったのは少し残念だった。今年度も参考になる回答が多く見られるため、次回の研修に反映させたいと思います。

Q4.今後、「子どもの貧困」について研修で聞いてみたいことや知りたいことをお聞かせください。(一部抜粋)

→「子どもの貧困」は親の貧困と密接に関わっていると思いますので、貧困の全体像の理解が必要なのかもしれないと思いました。
→子どもの貧困は、連鎖によるものもあると思うので、その連鎖を断ち切るためにできること等を知ることができたらうれしい。
→もう少しヤングケアラーの子どもの事例を聞きたかったです。また、実際のヤングケアラーにお話しも聞いてみたいと思いました。
→今回のワークショップのように、事例を基にどういった対応が求められるのか、また、どういったことに気を付けて対応するべきか（今回の事例で言うと、家族のことだけではなく、娘本人はこれからの人生をどう歩みたいのかをしっかりと聞き取る等）について考えることで、「子どもの貧困」を自分ごと化して考えることが出来るなと思いました。
→今後も実例を交えて講演していただけると、問題を身近に感じることができてよいと思います。
→元当事者の経験談など聞いてみたい。
→今回研修を受け、日野市では社会資源が少ないと話を聞きました。他自治体ではどのような施策があるのか、どのように支援をしているのか知る機会があったらと思います。

Q5.ヤングケアラーに対して、ご自身の持ち場でどんなことができると思いますか。(一部抜粋)

→自身がヤングケアラーであるという認識がない人もいるので、日野市であればヤングケアラーコーディネーターがいて相談できるということを、当然支援が必要と勝手に決めつけてはいけないが、案内することができるようになればいいと思った。
→現在の職場ではヤングケアラーまたそのご家族と接触する機会はほとんどないのですが、関係があまりない部署でもやはりヤングケアラーの存在を意識すべきで、私生活においても少し周りに気を配れるようになると良いと思います。ご本人の意思で家族のケアをする選択をされたのであれば、一人で抱え込まず、また負担にならないように多くの助ける「手」があることを紹介したい。自分ひとりですべて背負わなくても良いと知ってほしい。「なりたいもの」「やりたいこと」が実現できるよう、実際に支援しているような取り組み（他課の仕事内容含め）なども知っておくべきだと思いました。
→自身の担当業務とヤングケアラーが結びつかず、持ち場で直接的にできることが思いつかなかったのですが、全職員に共通して言えることとすると、まず「知ること」が重要だと感じました。特に、本人がヤングケアラーという自覚を持ちづらいという点においては、周囲の大人が気づき寄り添うことのできる体制を作ることが必要であり、その前段として知識を蓄えるということが、地道ではありながらも非常に大事なポイントであることを感じました。今後の異動先でも、本研修で学んだ知識を念頭に置き、困っている気持ちに気づき、寄り添う気持ちを持つことのできる職員でありたいです。

Q6.今回の研修についての気づいたことをお聞かせください。(一部抜粋)

→ヤングケアラーと子どもの貧困の相関性のような話があり、昨今の社会問題は複合的な課題が増えているように感じた。児童虐待なども精神的な要因もあるだろうが、経済的な困窮が根っこにあることもあるだろうし、行政が実施することが向いていること、民間の力を借りた方がよいものなど、様々なツールによる解決が図られればいいのだろうという感じがした。

→今回の研修を受けるにあたって初めてヤングケアラーという存在を知りました。
実際にヤングケアラーの方と関わっている方からお話しも聞けて、自分の知らないところで悩みを抱えているヤングケアラーたちが沢山いるのだと痛感しました。また、初めて実際おきている事例などにも触れて、とても勉強になりました。

→ヤングケアラーは単純なものではなく、複数の問題が絡み合っているものであることから、ヤングケアラーを解消するには家庭全体の困りごとを解消しなくてはいけないこと、それをするには複数の部署や機関が協力する必要があることが分かりました。ただ、具体的に何をできるのか、どこまで対象家庭に介入していいのか等々考えるべきことが沢山あると気づきました。

→ヤングケアラーの当事者だけでなく、その兄弟や親などそれぞれに課題があり、多角的な視点で支援を考えていかないと解決できないということを改めて実感しました。

→グループ討議では、自分の所属する部署に囚われず、まず何が必要かという入口から入りヤングケアラーについて知るという初級研修でしたので、楽しみながら理解できる研修だったかと思います。

Q7.今回の研修について感想をお聞かせください。(一部抜粋)

→ヤングケアラーの実態などは過去に担当していたのでわかってはいたが、実際のケースに当てはめて支援をどうすればいいかをグループワークで考えるとなると中々効果的な方法が考えられず、劇的な解決方法や一人の支援者だけでなく、極端に言えば、本人や家族を含めて全員でよい方向に向かっていかなければならないと感じた。

→グループワークを通して、ケースを頭の中に思い描きながら、具体的に「何ができるのか」考え、意見を交わすことができたので良かったです。自分だけではなくいろいろな方の目線、意見で考えが膨らみました。

→ヤングケアラーについて、理解が深まりました。
実際にヤングケアラーに気づいた場合の市職員としての行動について、もっと知識が必要だと感じました

→講義だけでなく、事例検討を行ったことでヤングケアラーについてより深く考え、思いを巡らすことができた。

→今回の研修でヤングケアラーについて学べたので、このような人達がいるということを他の人たちにも積極的に発信をしていきたいと思いました。率直に、ヤングケアラーという言葉、存在がもっと沢山の人に伝わっていけば、ヤングケアラーの方たちを支える基盤が確立していくのではと思いました

→今回の研修について、お二人の先生の話がとても勉強になりました。法令改正や歌舞伎での取組などの時事だけではなく、事例紹介なども交えてお話してくださったおかげで、自分には関係ないと思っていたことが身近にももしかしたらいるのかも…声をあげられていない方がいるのかも…と考えるきっかけになりました。

→グループワークで意見を出し合うことにより、多角的な視点から解決策を考えることができたと思う。

→子どもの貧困に業務で関わる一部の課だけでなく、様々な課からの参加者が集まったグループワークを新鮮に感じた。役所全体で考えられたことが意義深いと思った。